

マレーシア帰国後報告レポート

生命環境科学研究科
生物資源科学専攻 M2
小松 昇平

1. マレーシア滞在の流れ

筑波大学&マレーシア工科大学教育研究交流プログラムでは主に MJIT(以下 Malaysia-Japan International Institute of Technology)、UPM(以下 Universiti Putra Malaysia)、FRIM(以下 Forest Research Institute Of Malaysia)、ペルマニス社と Sime Darby Plantation を訪れた。

2. MJIT でのセミナー

MJIT の Metabolic Engineering & Molecular Biology (以下 MemBio) 研究室のゼミナールに参加した。MemBio からは 2 名、弊団体からは 1 名がプレゼンテーションをおこなった。MemBio のプレゼンテーションは輪講であった。プレゼンターが興味を持った論文を 1 つ取り上げ、その内容について発表した。一方、弊団体の大山が自身の研究の概要について発表した。それぞれの発表後、質疑応答があった。ゼミナールで取り上げられた研究内容は私自身の専門外であったため、基礎的な質問をせざるを得なかった。

3. UPM での見学

UPM では Department of Plant Protection の研究室を見学した。そこでは、ディスカッション形式による研究所の紹介を受けた。その後、実際の実験室の見学および実際に生育している植物について説明を受けた。この研究室では、病気等から植物を守り、安定的な植物生産の研究をおこなっていた。私自身、農薬の研究に携わった経験があったため、同じ分野についてディスカッションできる事を期待していた。しかし、農薬を使わないアプローチをおこなっていたものの、ディスカッションを通じて新しい知見を得る事ができた。

4. FRIM のツアー

FRIM では、マレーシアの材木を使った伝統的な木製品の博物館の見学と森林のトレッキングコースをツアーガイドの下、散策した。博物館では、マレーシアでは古くから木材を使って高級品を作っており、それが現代でも通じている事を知った。また、トレッキングコースでは全ての木の成長を研究所の創立から記録しており、膨大のデータの蓄積から森林に関連した研究では成長速度



写真 FRIMにて

などの指標が基準になる事を学んだ。

特記事項としてナショナルグラフィックスにも取り上げられた、樹木の景色があり、お互いが適度な感覚を保った様子は美しかった（写真）。

FRIM 滞在中、全般として知ることマレーシア政府が長年取り組んできた森林の研究の深さを体験する事ができた。

5. MJIT のワークショップ

MJIT にて筑波大学との今後の学術提携についての会合に参加した。前半は学生による 5 分程度によるプログラムの振り返りをおこなった。その後、MJIT と筑波大学のジョイント・ディグリーの概要説明と弊団体の稲葉による本プログラムの振り返りと今後の展望についてのプレゼンテーションがあった。

会合から今後、筑波大学の学生がより一層、海外の大学へ留学しやすい環境が整う事が分かった。私自身、2016 年 3 月を以って修了により、筑波大学を去るため、このプログラムに参加できないのは残念であった。

6. ペルマニス社とのミーティング

アサヒグループのペルマニス社にて日本企業のマレーシアでの活動について伺う機会を得た。イスラム教に配慮した製造設計と労働環境の充実を図る事がマレーシアでのビジネスを充実させるうえで必要不可欠である事を知った。

販売網の構築やビジネススタイルが日本と違うところを受け入れ、マレーシアの仕様に従事した戦略が大切である事も知った。

私自身、海外で働く事に抵抗がないうえ、マレーシアに滞在して、仕事する事も検討していたため、有意義な時間を過ごした。

7. パームオイル工場の見学

パームオイルを製造している Sime Darby Plantation を見学した。

ここでは、原材料から製造までをおこない、近隣の港へ輸送するための施設が揃っていた。初めに製造工程の説明があり、その後、施設の見学があった。

施設は小規模であったものの、2017 年に同規模の施設を建設する予定である。

8. 感想

マレーシアは 2 年前に一人で旅行として滞在した事があったため、生活面で苦勞する事は無かった。また、クアラルンプールの主な観光スポットは行った事があったため、休日や自由時間は、日本にいるのと同じ感覚で自分の好きな事をしていた。具体的には旧友に会う事であり、特に以前、筑波大学に留学していた友達に会う事ができた。このような機会を作ってくさった本プログラムに感謝する。